

事業報告書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査（平成16年度からの継続調査）

阿寒川水系の水と森林に関する調査を昨年度に引き続き実施した。財団が管理する森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川（キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウレイ川については、平成27年度より継続）で降雨量、流量、土砂濃度等の調査を実施した。

事業費 1,306,091円(予算額 1,220,000円)

(調査：山形大学農学部 菊池俊一准教授)

事業概要

現地調査

日程 平成29年 6月 7日 河川水自動採取装置3箇所設置

(チクショベツ川、キネタンベツ川、チュウレイ川の各調査区)

平成29年 6月～11月 水の採取等の現地調査実施

(2) 人材育成事業

1) 一歩園自然セミナー開催事業

アイヌ民族の持つ世界観（文化）は自然現象、動物、植物などの人間生活に関わるすべての事象や「もの」に神の存在を認め、崇め、そして活用する姿勢であり、私達の自然との付き合い方の大きなヒントでもある。本セミナーにおいてアイヌ文化を「食」、とりわけ厳冬期の気候や森林がもたらす保存食の視点から見つめ、その手法を実際に体験し、食す「阿寒の森でケラアン（美味しい）体験！アイヌ民族の食の知恵」を開催した。

事業費

262,220円（予算額 551,000円）

事業概要

日時 平成30年2月12日（月・振替休日）

・森林内にて樹木等の食物利用に関するレクチャー 9時40分～10時45分

・講演 演題「アイヌの保存食」 11時00分～12時40分

・アイヌ保存食（ポツチェイモ）の調理、試食 13時15分～14時45分

会場

・ボッケの森（財団管理森林内）

・阿寒湖まりむ館／トーラサンペ・ユーカラ（会議室）

・阿寒湖まりむ館／パクパク（調理室）

参加者

42名

講師

本田 優子 氏（札幌大学教授）

村木 美幸 氏（一般財団法人アイヌ民族博物館専務理事）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の

保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市に対して前田奨学金の助成を行った。

事業費

1,000,000円（予算額 1,000,000円）

（３）普及啓発事業

１）観察会開催事業

（ア）ネイチャーウォッチング

阿寒湖周辺は多様性のある森林帯であることに加えて、ボッケ（地熱帯）や大小の河川、湖沼が多く見られることから、多様な植物や野生鳥獣の生育・生息場所となっている。昆虫類についても多種多様な種の生息が確認されているが、本来、子供たちにとって、身近な生物であるはずの昆虫の観察や、採集する機会が激減していることから、現場の第一線で活動する昆虫の専門家を講師として、阿寒湖周辺の多様な昆虫の観察や採集（標本づくり）の機会を提供し、身の回りの豊かな自然環境を感じ、護ることへの動機づけとなる実体験型自然観察会「夏休みスペシャル体験！Let`s go 阿寒の森！昆虫を見つけ、捕まえ、標本をつくろう」を開催した。

事業費

539,722円（予算額 393,000円）

事業概要

日時 平成29年7月29日（土）午前10時00分～午後3時50分

現地観察 光の森（財団管理森林内／阿寒湖南側森林）

標本作成 阿寒湖まりむ館

参加者 24名（釧路市全域公募の小学4年生～小学6年生ほか）

講師 大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

(イ) 自然観察支援事業

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路小学校「自然環境教育プロジェクト」と連携し、同校2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に自然体験プログラム（延べ12回、参加者351名）並びに、津別町教育委員会生涯学習事業「アソビバつべつ！！」と連携した野生生物（エゾサンショウウオ、アメマス）についてのプログラムを（延べ2回、参加者24名）実施した。

事業費

141,554円（予算額 205,000円）

2) 前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する調査研究等の諸活動に対して助成を行った。また、札幌市において、平成28年度の助成対象者の事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で開催した。

事業費

2,605,303円（予算額 6,108,000円）

事業概要

○平成29年度被助成者

①佐藤照雄（釧路市）

助成内容：釧路のスマイレ フォト&ハンドブックの出版事業 助成額：700千円

②羅臼のひかりごけ保存会（札幌市）

助成内容：「マッカウス洞窟のヒカリゴケ」リーフレット出版事業 助成額：146千円

③大日向倫子（釧路市）

助成内容：「春採湖物語」出版事業 助成額：330千円

④霧多布湿原ナショナルトラスト（浜中町）

助成内容：地域とともに作る植物標本集－ハーバリウム・霧多布－ 助成額：200千円

⑤平野幸彦（神奈川県小田原市）

助成内容：「トムラウシ温泉付近（北海道：十勝）の甲虫目」発行事業 助成額：285千円

※ 助成総額 1,661,000円

○審査経過

平成29年1月13日 募集広報

平成29年5月 1日 審査委員会開催（応募件数：道内外からの団体・個人より計16件）

○審査委員 梶本 孝博 氏（委員長）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

徳丸 久衛 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

武田 敏朗 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

3）森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に、平成26年度より試行的に取り組みを開始した「森の学校」事業は、「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）、「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）、

「研究の森」（森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業）の３事業から構成される事業である。本年度の「森の学校」事業としての詳細は次のとおりである。

「教育の森」では、森林を教育的に活用できる指導者の養成事業として北海道教育大学釧路校他と連携し「きっかけポン阿寒の森プロジェクト」を実施した。

「レクリエーション・健康の森」では、「一歩園森の案内人（ガイド）」の養成研修を前年に引き続き実施し、研修を終了した新たな７名を「一歩園森の案内人」として認定を行った。

「研究の森」では、東京農業大学生物産業学部と平成２９年６月に締結した連携協定に基づき財団管理森林内において天然林やエゾシカをテーマにした卒業研究や実習実施の支援（フィールド案内、講師）をした。

○「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）

・指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携

財団管理森林（光の森）をフィールドとして、次世代の教育者を目指す学生並びに現役教員等に対し、学校教育に係る教材発掘、活用を見据えた自然観察・体験活動の提供。

実施日並びに参加者

平成２９年６月 ２日～ ４日（２泊３日）北海道教育大学釧路校 大学生等２３名

平成３０年２月１４日～１６日（２泊３日）北海道教育大学釧路校 大学生等２４名

○「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）

・「一歩園森の案内人」（ガイド）の養成

「一歩園森の案内人」養成研修の実施及び認定式の開催

引き続き、必須研修等を実施するほか、これまで実施してきた自主研修を「新たなガイドコースの作成

研修」（現森の案内人1名をサポート役とする3グループによる実地研修）に振替えて実施するとともに、研修終了に伴い新たな7名を「一步園森の案内人」として認定した。

実施日並びに実施内容

研修期間

平成29年 6月～平成29年12月 3グループそれぞれ複数回実施

審査会

平成29年11月14日、平成29年11月28日、平成29年11月30日、
平成29年12月22日

認定式

平成30年1月25日開催 新たに7名の「一步園森の案内人」を認定

○「研究の森」（森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業）

・研究支援

卒業論文4件に係る財団管理森林の解説、研究フィールドの選定支援、研究フィールドの提供を実施した。

実施日並びに参加者

平成29年6月～平成30年3月 東京農業大学生物産業学部学生（4年次4名3年次1名）

・実習支援

天然林を中心とした財団管理森林の解説、エゾシカ対策の解説及び食害防止対策（ネット巻き）実施講師、食害被害調査地の選定支援を実施した。

実施日並びに参加者

平成29年6月22日 東京農業大学生物産業学部学生（3年次18名、森林解説）

平成29年6月24日 東京農業大学生物産業学部学生（1年次36名、エゾシカ対策解説、ネット巻き講師）

平成29年7月 1日 東京農業大学生物産業学部学生（1年次36名、食害被害調査支援）

事業費

1,704,261円（予算額 1,601,000円）

（4）顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞を贈呈するとともに、未来を担う子供（小中学生）たちの自然環境の保全活動への取組みの励みとなるよう一步園ジュニア自然環境賞及び一步園ジュニア自然環境賞奨励賞を贈呈した。

事業費

2,335,036円（予算額 2,338,000円）

事業概要

○前田一步園賞顕彰者

・森田 正治 氏（中標津町） 中標津町推薦

業績：傷病野生動物の救護のための道東野生動物保護センターを設立し、希少動物をはじめとする数多くの野生動物も救護。また、保護中の動物を「教材」として、動物愛護や自然環境の保全を推進するための

セミナーカリキュラムなども構築し、野生動物保護に資する人材育成にも尽力する傍ら、野付半島周辺の自然環境の保全、調査をはじめ、地元住民や児童を対象とした講演会、自然観察会にも取り組む。

- ・奈良 泰世（釧路町）釧路町教育委員会推薦

業績：菌類を中心とした調査研究や自然環境の保全活動に取り組み、釧路管内の小中学校の授業や課外活動などをはじめ、大人から子どもまで広く対象に、キノコを題材とした森の生態系を分かり易く解説した自然観察、勉強会等の講師を務める傍ら、自然環境教育や理科などにも活用が期待される「阿寒の森のきのこたち」を出版し、釧路管内の小中学校に寄贈するなど、普及啓発にも尽力。

○一步園ジュニア自然環境賞

- ・阿寒湖グリーンクラブ少年団（釧路市） 釧路市推薦

ワカサギ採卵学習、マリモ生息地観察、ヒメマス放流、エゾシカ樹皮食害ネット巻き体験など、阿寒湖並びに周辺森林ならではの特徴的な自然体験、自然保護活動を実施し、阿寒国立公園阿寒湖地域の自然保護と団員の健康な心身と健全な精神を養う。

- ・中茶安別緑の少年団（標茶町） 標茶町推薦

身近な自然環境である学校林をフィールドに四季折々の自然体験活動やツリークライミング、別寒辺牛川でのカヌー体験など、地域の特色ある自然を感じられるプログラムを複式小規模校の利点を活かし、小学生から中学生が協働で取り組む。

○一步園ジュニア自然環境賞奨励賞

- ・いわみざわ花と緑の少年団（岩見沢市） 岩見沢市推薦
- ・南富良野中学校（南富良野町） 南富良野町推薦
- ・南富良野小学校（南富良野町） 南富良野町推薦
- ・南富良野西小学校（南富良野町） 南富良野町推薦

○審査経過

平成29年 5月 9日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

平成29年 8月 30日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞4件、一步園ジュニア自然環境賞6件）

平成29年10月 29日 表彰式（出席者：38名、当財団役職員含む。会場：ホテルポールスター札幌）

○審査委員 梶本 孝博 氏（委員長）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

徳丸 久衛 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

武田 敏朗 氏（北海道環境生活部環境局生物多様性保全課長）

（5）地域保全事業

1) 山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具に対して助成を行った。

事業費（助成） 222,480円（予算額 300,000円）
（助成先：阿寒湖畔森林愛護組合）

2) エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費（助成） 800,000円（予算額 800,000円）
（助成先：阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会）

(6) 前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 600,000円（予算額 900,000円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成29年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良等を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費 1,923,000円 (予算額 1,940,000円)

(請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業)

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成28年度のエゾシカによる道内農林業被害額は39億1,700万円（前年度比3億3,800万円減）とピークであった平成23年度における64億円より年々減少している。また、道内のエゾシカ推定生息数も平成22年度の66万頭をピークに年々減少し、平成28年度は45万頭（前年度比4万頭の減）と推定される（北海道公表資料より）。

全道的にみると、被害額・推定生息数ともに低下しているが、最新の管理計画である「北海道エゾシカ管理計画（第5期）」（平成29年3月策定）では、東部地域（オホーツク、十勝、釧路、根室管内）の管理目標について「第4期計画では、平成5年度末の推定生息数を基準（個体数指数100）として、平成28年度までに個体数指数50としたが、平成27年度の個体数指数は92とまだ高い水準にあることから、目標達成を実現することは難しいものと考えられる。このため、捕獲対策の推進に努め、個体数指数50以下をめざす。」としており依然対策が必要な状況にある。

このような中であって、財団管理森林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲といった対策事

業により樹皮喰等の被害を抑制することに成功しているが、楽観視はできない状況である。

このため、平成２９年度も前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施したことにより森林被害防止に努めた。これらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査を実施した。

平成２９年度の事業量は、平成２８年度設置の囲いワナ２基撤去、囲いワナ２基の設置、ビートパルプ給餌７６４個（補助金活用８０個を含む）、囲いワナ（２基）による捕獲（８６頭、平成３０年１月～３月）、エゾシカ防護柵修繕（４ヶ所）である。なお、平成２９年度の囲いワナによる捕獲事業において、業務の効率化や夜間にワナ内に侵入するエゾシカへの対応のためワナを改良（頭数を設定し自動で捕獲用扉を閉める装置の導入）し、平成２８年度までは対応できなかった夜間にワナ内に侵入したエゾシカの捕獲に成功している。

なお、平成２９年度の森林被害防止対策の内、囲いワナの設置（２基）及び囲いワナ内の誘引を目的とした給餌（８０個）に関しては、補助金（平成２９年度エゾシカ森林被害防止強化対策事業）の交付申請を行い同補助金を活用し実施した。また、平成３０年１月～３月に捕獲したエゾシカ（８６頭）については、平成２９年度鳥獣害被害対策防止総合対策交付金を申請し、同交付金を受領した。

事業費 １１，２６３，３３３円（予算額 １２，９８０，０００円）

（請負等先：（有）前田一步園林業）

事業概要

- ・ 囲いワナ撤去事業

平成２８年度に設置した２箇所の囲いワナの撤去

- ・ 給餌事業

給餌場２５箇所の給餌

餌の使用量 ビートパルプ 764個（1個60kg、給餌総量45,840kg）

罾いワナ 2 箇所での捕獲

捕獲回数 19回

捕獲頭數 86頭

既設の林道・作業道の補修・改良および維持管理（砂利敷、路面掻き均し、笹刈り、倒木の除去、排水処理）を実施した。

事業費 1,735,000円(予算額 1,500,000円)

(請負等先：(有)前田一步園林業)

林分構成の整備を図るため、現況調査を平成30年度間伐実施予定区域である3119林班の天然生林にて行った。調査の結果、平成30年度の間伐材出材量を1,300m³（前年度計画比1,090m³減、内訳については表2-1に掲載）と計画した。

事業費 1,011,299円(予算額 1,760,000円)

(請負等先：(有)前田一步園林業)

(表 2 - 1) 平成 3 0 年度間伐材出材計画内訳

間伐の内容	出材量計画 (m³)	前年度出材量計画比
人工林間伐 針葉樹	470	+110
人工林間伐 広葉樹	50	0
天然林間伐 針葉樹	550	-1,030
天然林間伐 広葉樹	230	-170
合 計	1,300	-1,090

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を実施した。また、平成 2 8 年度の台風被害地である阿寒川沿いの危険木の処理を実施した。

事業費 442,000 円（予算額 1,000,000 円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭（500 本植栽）に係る「苗木の購入」、「地拵え」、「下刈」を実施した。

事業費 288,000 円（予算額 290,000 円）

（請負先：(有)前田一步園林業）

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林38.54haの間伐（内、H28台風被害地9.62ha）、新規作業道の開設（580m）、枝打ち28.92haおよび伐採木（408m³）の搬出を実施した。

事業費 16,570,400円（予算額 12,710,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 間伐：3084-5、3078-6、3079-12、3084-4の各林小班

枝打ち：3078-6、3079-12

作業道：3078-3

3) 人工造林事業

平成28年度台風被害地の回復を図るため、人工林内の被害木除去跡地4.7haにエゾマツ2,800本を植栽した。

事業費 1,198,000円（予算額 1,760,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 3084-4 林小班

（3）天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

平成28年度台風被害地の回復を図るため、天然生林内の被害木除去跡地15.62haの地拵えを実施した。

事業費 1,591,000円（予算額 0円）

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3074-3 林小班

2) 誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成24年～28年度に植栽した誘導造林地の73.34haの下刈作業を実施した。

事業費 2,478,000円 (予算額 2,390,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3083-16・22・23・24、3090-17、3093-9、3095-6・16、3104-3・10・11、3105-6・7、3106-6、3107-4・5 の各林小班

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、過熟木、衰弱木、傷害木、被害木等55.69ha (内、台風被害地10.66ha)の間伐、平成30年度以降の植栽予定地28.18haの更新伐 (内台風被害地28.18ha)、伐採木1,411m³の搬出、および新規作業道開設1,760mを実施した。

事業費 39,408,300円 (予算額43,680,000円)

(請負等先：(有)前田一步園林業、釧高運輸(株))

作業実施林小班 間伐 : 3074-8、3075-5、3087-1・2・8、3074-6・9・10・11 の各林小班

更新伐 : 3074-3

作業道 : 3074-3・11

(4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。これらに加え、森林地理情報システム（GIS）の更改（ソフトウェア・GPS端末の更改）を行い、調査業務や計画立案業務の効率化を図った。

事業費

2,832,017円（予算額 2,900,000円）

（５）その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は18件、人数は305名であった。

おもな視察受け入れ内容

29年	6月22日	1日	天然林施業〈東京農大〉	(18名)
29年	6月24日	1日	エゾシカ対策〈東京農大〉	(36名)
29年	6月30日	1日	天然林施業〈全国巨樹巨木林の会会長他〉	(3名)
29年	7月1日	1日	エゾシカ対策〈東京農大〉	(36名)
29年	7月8日	2日	天然林施業〈北海道森林管理局 局長他〉	(4名)
29年	7月27日	1日	森林視察〈地産地消くしろネットワーク〉	(16名)
29年	7月31日	1日	天然林施業〈利賀地域ふるさと推進協議会〉	(2名)
29年	9月8日	1日	天然林施業〈栄林会青年部他〉	(59名)
29年	9月16日	1日	森林視察〈釧路市民文化振興財団〉	(30名)
29年	9月21日	1日	天然林施業〈JICA〉	(19名)
29年	9月25日	1日	天然林施業〈マルマタ林業（大分県）社長他〉	(2名)

29年10月26日	1日	天然林施業〈上川南部地域指導林家〉	(12名)
29年11月7日	1日	天然林施業〈JICA〉	(15名)
29年11月20日	1日	森林視察〈木育マイスター道東支部〉	(20名)
29年11月21日	1日	天然林施業〈JICA〉	(9名)
30年2月5日	2日	エゾシカ対策〈釧路総合振興局産業振興部長他〉	(4名)
30年2月8日	1日	森林視察〈JICA〉	(15名)
30年2月18日	1日	森林視察〈酪農学園大学〉	(5名)

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

（1）土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守・管理及び景観の向上を目的に、市街地における空地の緑化や危険木の伐採事業等を行った。

事業費

254,800円（予算額 800,000円）

(2) 土地貸付

前年度に引き続き、表 3－1 のとおり土地の貸付を行った。

なお、有償貸付の契約面積の増については、個人契約 1 件の返地（敷地面積合計 146.54 m²）及び法人の新規契約 1 件（敷地面積 327.30 m²）に伴う差し引きによるものである。

(表 3－1) 土 地 貸 付 等 状 況 一 覧

契約区分	平成 29 年 3 月 現 在		平成 30 年 3 月 現 在		備 考
	契約件数	貸 付 等 面 積	契約件数	貸 付 等 面 積	
有償契約	204 件	519,375 m ²	204 件	519,555 m ²	電力会社送電線敷地 41ha を含む。
無償契約	19 件	346,115 m ²	19 件	346,115 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会他
計	223 件	865,490 m ²	223 件	865,670 m ²	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進等を本年度も継続して行った。

(1) 温泉供給施設の整備

1) 揚湯ポンプの拡充事業

各源泉共通の予備温泉ポンプ（7.5kw）を 1 台、及び、揚湯管（4 m×8 本）を購入し、温泉の安定供給の確保に努めた。

事 業 費

1,975,000 円（予算額 2,000,000 円）

2) 温泉計量器の交換整備事業

温泉計量器（流量計）を交換整備し、温泉供給量を把握することにより、温泉の安定供給と資源の節約に努めた。

事業費 185,000円（予算額 200,000円）

3) 温泉供給施設の整備事業

12号源泉において、供給量の管理や耐久性の向上を目的に、塩ビ管のヘッダー（供給設備）をあらたにステンレス製のヘッダーに改良した。それに伴い、ヘッダーの格納施設を新築した。

事業費 5,020,000円（予算額 5,040,000円）

4) 12号源泉ヘッダー整備に伴う各種関連事業

12号源泉ヘッダー新規整備に伴う付帯工事として、隣接する新2号源泉ヘッダーの移設やチップ川源泉インバーターの移設等による電気配線工事や格納庫の一部修繕及び不要となった井戸収納小屋の解体撤去を実施した。

事業費 1,380,000円（予算額 1,380,000円）

5) 13号源泉インバーター改修事業

13号源泉において、従来の供給システムである流量制御に加え、圧力制御を行うためのシステムを追加することにより、温泉の安定供給の確保に努めた。

事業費 880,000円（予算額 900,000円）

6) チップ川源泉揚湯試験事業

チップ川源泉において温度と水位の低下がみられたことから、北海道がとりまとめる環境審議会へ動力変更申請（ポンプ位置切り下げ）を行なうことで温度と湯量の確保をすることを目的に、申請に必要な揚湯試験調査及び近隣源泉における井戸影響調査を行うとともに井戸状況を把握するためのカメラ検層を実施した。

事業費

1,580,000円（予算額 1,580,000円）

(2) 源泉及び温泉供給設備の管理

平成30年3月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、稼働中12本、非常時用予備1本、観測井2本）である。前年度に引き続き、これら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

(3) 温泉供給

前年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行った。

(表4-1) 温泉供給状況一覧

供給区分	平成29年3月現在		平成30年3月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	66件	298本	66件	298本	
無償供給	3件	4本	3件	4本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3本		3本	暖房等財団諸施設
計	69件	305本	69件	305本	

5. その他

(1) ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託し行った。

事業費

220,000円(予算額 220,000円)